

スコアシート		実施設計段階				全体		
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境					0.40		-	3.8
1 音環境				5.0	0.15	3.8	1.00	4.0
1.1 室内騒音レベル		共用:[騒音レベル]≤40、住戸:35<[騒音レベル]≤40		5.0	0.50	4.0	0.50	
1.2 遮音		遮音等級T-4サッシを使用する。		5.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能				5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-		-	-	-	-	
2 温熱環境				3.0	0.35	4.0	1.00	3.8
2.1 室温制御				3.0	0.50	4.0	1.00	
1 室温		-		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		省エネルギー等級4である。		3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		-		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.6	0.25	4.0	1.00	3.7
3.1 昼光利用				1.8	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率		2%以上を確保する。		1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		カーテンと庇で昼光制御している。		3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		-		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		-		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.6	0.25	3.7	1.00	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量		-		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保。		-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3
1 機能性				2.5	0.40	3.8	1.00	3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		光・LAN機器の採用にてGbitクラスのプロードバンドが利用可能。		-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		-		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-		-	-	-	-	
3 内装計画		-		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理しやすい内装材(床長尺シート)・外装材(50ニット磁器タイル)を使用している。		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-	
1 車体材料の耐用年数		劣化対策等級3相当としている。		5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、排水VP(B)、冷媒管SUS(C)、Eは不使用。		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		設計用水平震度KHを1.5とする。		4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		-		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	階高は、2.9m以上、3.0m未満	-	3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
	3.2 荷重のゆとり	2 空間の形状・自由さ	-	-	3.6	0.50	4.0	0.60	
	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性	-	-	3.0	1.00	3.0	0.40	
	2 給排水管の更新性	-	-	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	-	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	-	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	-	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	-	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.0	
1 生物環境の保全と創出				-	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮				-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				-	3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				-	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			標準入力法で計算した結果BEIは0.81。	-	3.9	0.50	-	-	3.9
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	
集合住宅の評価				-	3.9	1.00	-	-	
4 効率的運用				-	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	
集合住宅の評価				-	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.9	
1 水資源保護				-	3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマに加えて節水型便器を採用。	-	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				-	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				-	3.0	1.00	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無				-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				-	2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			仕上げ材の下地に軽量鉄骨を使用する。	-	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				-	3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				-	3.0	0.70	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	
3 冷媒				-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率77%	-	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				-	3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				-	3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				-	3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	3.0	0.40	-	-	
1 騒音				-	3.0	1.00	-	-	
2 振動				-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				-	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			広告物照明は、行っていない。	-	3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	1.0	-	-	○	-	-	-	○	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	-	-	-	○	-	○	-	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	○	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		2.0	1.0	1.0	2.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		1.0	-	-										
2.3 軀体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	-	-	-	2.0	-	-	-	3.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	-	-	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m ² K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値 3.1	外皮UA値 0.8	η AC -

3.1.1 昼光率

昼光率	4.4%
自然換気有効開口面積率	0.1%

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0m ² /人	病床	.0m ² /床	シングル	.0m ² ツイン	.0m ²
コンセント容量	0.0 VA/m ²					
天井高	0 m					

1.1.2 高度情報通信設備対応

リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%
想定耐用年数	75~90 年		

1.2.1 広さ感・景観

想定必要間隔	0 年
想定必要間隔	0 年
想定必要間隔	0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

階高	2~6F:2.m
壁長さ比率	0.0%

3.1.1 階高のゆとり

床荷重	- N/m ²
-----	--------------------

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	34%	建物緑化指数	0%
空地率	55%	水平投影面積率	18%

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	-	断熱等性能等級	等級4相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年 m ²	採光を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%

2 自然エネルギー利用

太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
BEI/BEIm	再エネ有	-	オフサブ再エネ有	-	-
一次エネ削減率	再エネ有	19%	無	19%	-

3 設備システムの高効率化

雨水利用率	0.0%
特定調達品目	-
使用比率	0.0%

非住宅部分

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)

集合住宅の評価

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

エコマーク商品